

東日本大震災 石川民医連支援ニュース

No.35 2011年5月6日

石川民医連事務局 TEL 076-253-1458

悲惨な体験をした後だからこそ笑って話してくださる

被災者の優しさと心の強さ

坂病院は順次平常に・・・

支援体制も順次縮小するなか、坂病院も以前のような平常にもどりつつあるようです。3日は連休のためか、文化センターの被災者も少ないが、風邪をひいている方が多い。午後はフリーになったので、石川からのメンバーで宮城野の里の乙丸さんを激励にいきました。（酒井県連事務局長）

思いを込めたケア・・・

3日は、宮城野の里の短期入所の支援。ご利用者に金沢弁はわからないと思い、標準語でしゃべっていたら、かえって相手も「???」。こっちも肩も口も凝るので、開き直っていつもの金沢弁丸出しで話すと、不思議なことに？スルスルと会話につながり、いつものなんぶやすらぎホームで会話している感覚そのものに。

津波被害の現場にも行きました。あの悲惨な体験をした後に・・・、むしろ後だからこそ笑ってお話をしてくださる現地の方々の優しさと心の強さに、涙がでました。

4日5日は夜勤です。宮城野の里の福祉避難所「まるふく」は、いずれなくなる場所。今の場所でこの顔ぶれで集まることはもうないのだと思うと、一つ一つの会話が

そしてかわりが、とても感慨深いです。

いつもと違う形で介護することで、些細なことにも敏感に反応し、思いを込めてケアをする・・・まさに一期一会を体感しています。夜勤中にも余震が数回ありました。「もう地震はいやだ」との認知症のお年寄りのつぶやきは、心の底からの言葉だと思いました。（乙丸介護士）

第6次 第7次 第8次の 支援隊報告会

5月10日(火)13:30-14:15

城北病院リハ室にて

緊急学習会 福島原発事故と健康影響 何が起きてるか 何をすべきか

5月19日(木)19:00-

城北クリニック2階

講師 平野治和医師

(福井民医連会長)